

「 被害を減らすためにできること 」

神奈川県 伊勢原市立伊勢原小学校 6年 松永^{まつなが} 遼介^{りょうすけ}

最近、豪雨で土砂災害や洪水が特に多いと思います。その中で僕が一番記憶に残ったのは2021年に起きた熱海市の土砂災害のニュースです。僕は、あのニュースを見ただけですごく怖い思いをしました。なので熱海市に住んでいた人たちは、ものすごく怖い思いをしたと思います。そして、自分が住んでいる地域は大丈夫なのかなと不安になりました。何か被害を減らす工夫はないのかと思い調べていると、三つのことが挙げられていました。

一つ目は、災害が起きた時の対策をしておくことです。ハザードマップを確認し直すことや、非常用の食料を確保することなどがあります。自分の住んでいる地域は大丈夫なのかと思いハザードマップを見直してみると、毎日、習い事に行くときに使うような道や、ついこの前遊びに行ったところなどの身近な場所が、大雨が降った時に、土砂災害が起こるような危険な区域に指定されていました。また、食料は家の中にたくさん用意してあるけれど、賞味期限が切れている物も何個かあったので、そこはきちんと見直さなければいけないと思いました。

二つ目は、実際に災害が起きた時の避難についてです。これは、避難訓練などから気を付けなければいけないことだと思います。訓練だからと気を抜いていると、実際に災害が起きた時に、避難が遅れたりすることがあります。自分は、学校の訓練などで、実際に災害が起きた時のことは考えずに、周りの人についていっているだけの時もあり、ここは、変えていかなければいけないと思いました。

三つ目は、砂防えん堤という施設についてです。この施設は、土石流をせき止める役割があります。砂防えん堤が、どんなものか、気になったので父と見に行くことにしました。

まず、秦野市にある山ノ神えん堤を見に行ってみました。そのえん堤は、山の中にあり大きい壁のようでした。最初は、こんなもので土砂を防げるような気がしませんでした。

「下のほうを見てみて。」

と父が言ったのでよく見てみると、下のほうにも、小さい壁が何枚もあって、これで土砂の勢いを弱めているのだと分かりました。一番上にある大きい壁に近づいて見てみると、上流側に土砂や木がたまっていて、本当に土砂を防いでいるのだと実感しました。

その後、山北町の鳶の子えん堤というところに行きました。そこは、さっき見に行ったのとは、全然違う形をしていました。これは、新しいタイプの物で柵みたいな形でした。土砂はたまっていなかったけど、これも土砂崩れが起きた時に土砂をせき止めてくれているのだと思い砂防えん堤は、すごいなと思いました。

しかし、これだけのことを国や県などがしている、熱海市の土砂崩れのように多くの人々が命を落としてしまうこともあります。なので、一人一人が災害のことについて意識をして生活をして、周りの人にいい行動が広がっていけばいいな、と思います。